

教育学部附属中学校

○建物概要

構造・階数：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造） 地上3階建
建築年：昭和44年、昭和45年、平成21年
延床面積：4,312㎡

○改修概要

主な改修内容：(Ⅰ期)経年32年の老朽化が著しい附属中学校校舎の内外装を改修
(Ⅱ期)経年39年の老朽化が著しい附属中学校校舎の耐震補強及び内外装を改修し、
一部耐震補強が困難な建物を改築

	整備面積
【Ⅰ期(昭和44年築)】 普通教室、昇降口等の改修	… 2,196㎡ (平成13年9月完成)
【Ⅱ期(昭和45年築)】 特別教室等の改修	… 1,484㎡ (平成21年12月完成)
職員室、第一理科室等の改築	… 632㎡

外観（東面）



耐震補強が困難なため、一部改築

外観（北・西面）



改修前



改修後

ひび割れていた外壁を補修した上、塗装改修

1階 美術室



改修前



改修後

使用不可であった流し台を更新し、床の剥がれ等の改修

1階 廊下



改修前



改修後

木目調で統一感のある明るい空間を設け、安心安全な教育環境を確保

1階 男子トイレ



改修前



改修後

トイレを更新し、排水方式を押ボタンから自動水栓に改修

教育学部附属小学校

○建物概要

構造・階数：鉄筋コンクリート造 地上3階建

建築年：昭和47年

延床面積：4,343㎡

○改修概要

主な整備内容：(Ⅰ期)経年38年の老朽化が著しい附属小学校校舎の耐震補強及び内外装を改修
(Ⅱ期)経年39年の老朽化が著しい附属小学校校舎の耐震補強及び内外装を改修

整備面積

【Ⅰ期】普通教室、特別教室、中高学年昇降口等の改修 …… 1,907㎡ (平成22年2月)

【Ⅱ期】普通教室、職員室、低学年昇降口等の改修 …… 2,436㎡ (平成23年12月)

外観 (北面)



ひび割れていた外壁を補修した上、塗装改修し、外壁の一部にはアクセントに再生木ルーバーを設置

2階 普通教室



普通教室には黒板の他に電子白板を設置し、学修環境を向上

1階 中高学年昇降口



天井の一部には外部の玄関底から続く再生木ルーバーを設置

1階 女子トイレ



ステンレス流し台を洗面化粧台に更新し、上部開放となっていた男子トイレとの間の壁を塞いでプライバシーを確保

教育学部附属特別支援学校

○建物概要

構造・階数：鉄筋コンクリート造 地上1階建（小学部）、地上2階建（中高等部）

建築年：昭和41年(平成6年改修済)、昭和51年

延床面積：3,029㎡

○改修概要

主な整備内容：(Ⅰ期)経年47年の老朽化が著しい附属特別支援学校小学部校舎の内外装改修を実施
(Ⅱ期)経年48年の老朽化が著しい附属特別支援学校校舎（体育館、食堂等）の内外装を改修予定
(Ⅲ期)経年58年の老朽化が著しい附属特別支援学校中学部・高等部校舎の内外装改修を実施

【Ⅰ期(昭和51年築)】小学部教室、職員室、小学部昇降口等の改修
【Ⅱ期(昭和51年築)】体育館、食堂、厨房等の改修
【Ⅲ期(昭和41年築)】中学部高等部教室、木工実習室等の改修

整備面積
… 956㎡（令和5年5月完成）
… 970㎡（令和6年2月完成予定）
… 1,103㎡（令和6年度施設整備費補助金概算要求中）

外観（東面）



改修前



改修後

ひび割れていた外壁を補修した上、塗装改修

1階 廊下



改修前



改修後

木目調で統一感のある明るい空間を設け、安全安心な居住環境を確保

1階 教室（中学部）



改修前



改修後



出入口扉
改修前



出入口扉
改修後



着替えスペース
改修前



着替えスペース
改修後

教室にある着替えスペースの段差解消し、古くて重い開閉困難な出入口の扉を改修して安全安心な学修環境を確保

教育学部附属幼稚園

○建物概要

構造・階数：鉄筋コンクリート造 地上1階建

建築年：昭和52年

延床面積：981㎡

○改修概要

主な整備内容：経年46年の老朽化が著しい附属幼稚園園舎の内外装を改修予定

整備面積

保育室、職員室、遊戯室等の改修 … 981㎡（令和6年度施設整備費補助金概算要求中）

外観（東面）



令和4年度に外壁の幅木が一部剥がれ、剥離した部分のみ補修。次の改修時には外壁を補修し、塗装改修により改善予定。

1階 遊戯室



遊戯室の内壁は腐食が見られるため、改修により改善予定。



1階 資料室（会議室）



スペースの不足により倉庫だった部屋を会議室等に使用している状況。

改修により平面計画の見直しを行い改善予定。

教育学部附属学校（幼・小・中）における入学定員の変更について

【背景等】

- ・国における公立小学校35人学級の導入（R3～）。山梨県における国以上の独自基準の設定（学年進行により、1～4年生に25人学級を導入（R3～））
- ・山梨県の意向や国・地域の動向、取り巻く環境の変化や新しい社会ニーズへの対応、教育的ニーズに応じたきめ細かな指導体制の整備等が課題
- ・教育学部附属学校としての意義・役割（実践型教員養成の推進）等を踏まえ、機能強化を図りつつ、教育モデル校としてのミッションを果たす必要性
- ・附属幼稚園、附属小学校、附属中学校は、連絡入学や公立校からの進学希望者への影響など各々に強い関連性があり、連動した対応（見直し）が必要

【入学定員変更（減員）計画】（幼稚園28人学級、小・中学校30人学級を導入）

・附属幼稚園

現行35人（3歳児のみ35人を2学級に分割。4・5歳児は1学級）の入学定員（以下「入定」）を**R6年度から28人に減員**。

・附属小学校

現行105人（35人×3学級）の入定を**R6年度から90人（30人×3学級）に減員**。

・附属中学校

現行144人（36人×4学級）の入定を**段階的に減員（R6・R9年度は4人ずつ）し、R12年度から120人（30人×4学級）に減員**。



〔段階的に減員を行う理由〕

現状、附属小学校（入定105人）の卒業者はほぼ全員が附属中学校（入定144人）へ連絡入学しており、残りの39人が外部（公立校等）からの入学者となっている。

R6年度から直ちに附属中学校の入定を120人に減員した場合、外部からの入学枠が急減（39人→15人）してしまうことから、この減少をできる限り緩和するため、段階的に減員を行う。

	入学定員			
	現行（R5）	R6	R9	R12
幼稚園	35	28	28	28
小学校	105	90	90	90
中学校	144	140	136	120

入学定員の減員により期待される効果

教育内容・環境面の効果（きめ細かな指導の実現）



- ・一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が可能な体制と教育環境の整備が可能。学習指導要領の求める主体的で深い学びを実現
- ・ICTを活用した先進的教育モデルの開発、成果の地域への還元強化
- ・GIGAスクール構想への対応や児童・生徒への手厚い指導、現代的教育課題（いじめ・不登校等）や保護者への対応等を充実

学生への効果（即戦力教員の養成）



- ・公立校と近い学級編制で実習を行うことにより、それを活かし、即戦力教員としての活躍が可能
- ・充実した実習や実務家教員による指導等を通じ、実践的指導力が向上し、教職への意識が向上
→ 教員志望者の増加も期待

教員への効果



- ・人事交流時の環境変化の平準化 → 県全体の教育レベルの向上が期待
- ・働き方改革の進展による教育実践研究の促進

➡ 附属学校の機能強化が図られるとともに、地域の教育モデル校としての役割が強化される